

今月のトピックス

白さび病（キク）

学名：*Puccinia horiana*



葉の病斑(激発時)



葉の病斑(発病初期)



担子胞子

冬胞子

写真：金城衣恵氏提供

生態と被害

主に葉に発生する斑点性の重要病害である。発生は11月からみられるが、春から初夏に多い。発病初期、葉に境界が不明瞭な円形・乳白色の小斑点として現れ、次第に黄色味を増しながら2～3mmに拡大する。葉裏面に淡黄色～淡褐色のイボ状に隆起した冬胞子堆を形成する。病斑が多数形成されると、葉が変形し、下葉から枯れあがる。冬胞子は2胞、淡黄色で楕円形。適温15～23℃の多湿時、冬胞子から形成された担子胞子は、植物に付着後1～2時間で発芽して、数時間で侵入する。本菌は冬胞子及び植物体内の菌糸が第一次伝染源となる。また、担子胞子は乾燥に弱い、結露時や小雨時の微風で200m前後飛散し、群落外へ伝染すると考えられる。品種により感受性に差がある。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>